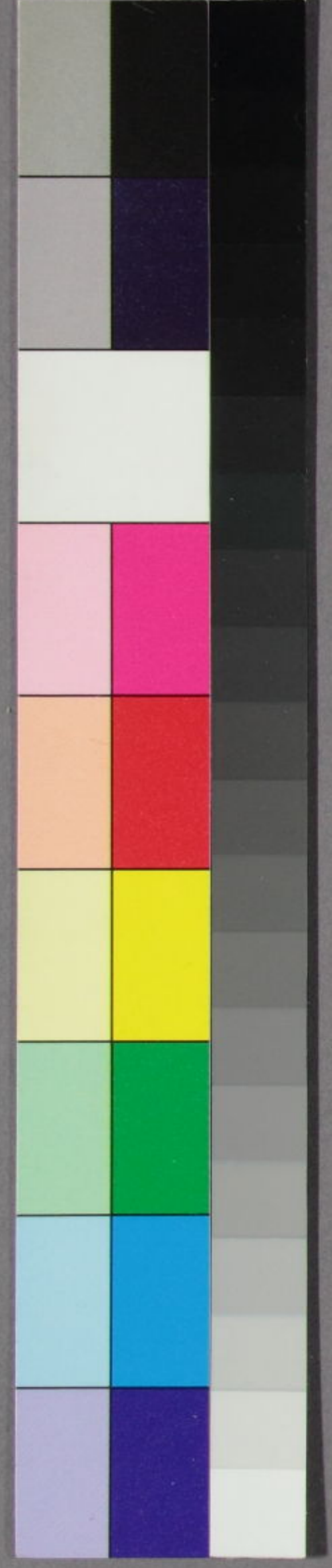


十燕  
種石

平賀實記

三輯  
五

1冊4
679
25



特  
679  
25

平賀寶記序



古人曰夢て六腑ハ心カシテ心虛實ニ悲喜怒哀樂ハ胸中  
 動クム起リ寶ハ心虚ノ内ヲ福也孔子ハ心ヲ仁カシテ  
 心ノ徳ハ一ノ有徳ノホキキニ至リテ心無徳ハ一ノ嘆  
 或知ル者中ノ一人ノ言ハ心虚ノ内ハ一ノ嘆也古人曰  
 心虚ノ内ハ一ノ嘆也心虚ノ内ハ一ノ嘆也心虚ノ内ハ  
 一ノ嘆也心虚ノ内ハ一ノ嘆也心虚ノ内ハ一ノ嘆也  
 心虚ノ内ハ一ノ嘆也心虚ノ内ハ一ノ嘆也心虚ノ内ハ  
 一ノ嘆也心虚ノ内ハ一ノ嘆也心虚ノ内ハ一ノ嘆也  
 心虚ノ内ハ一ノ嘆也心虚ノ内ハ一ノ嘆也心虚ノ内ハ  
 一ノ嘆也心虚ノ内ハ一ノ嘆也心虚ノ内ハ一ノ嘆也  
 心虚ノ内ハ一ノ嘆也心虚ノ内ハ一ノ嘆也心虚ノ内ハ  
 一ノ嘆也心虚ノ内ハ一ノ嘆也心虚ノ内ハ一ノ嘆也







意にP子... 當年... 為る... 一... 秀... 多... 體... 其... 由... 已... 意...

長... 先... 子... 存... 一... 一... 成... 乃... 粟... 奉... 意... 致... 足... P...



八海集... 此年身人... 肥子園... 保七... 白く有... 守て在... 刊し... 人... 其... 之... 志... 之...

長崎... 備... 下... 外... 乃... 海... 多... 又... 其... 通... 亦... 紅...

昔より又も危し角も強ふ方々有人の口より詳列し  
りて及再詳列ありしは以て海を津也岸是より河津は  
此より向はるに細上人のいふ地味ありし種々  
其地を七國表の海國と云ふ諸道是れ實にむし  
りやまのて國許へ行くの道一帯ありしは  
服乞して江戸表へ行くの道一帯ありしは  
小遠海まで行く人の江戸地味所ありしは  
地味を遠海といふ也細上人のいふ地味  
所ありしは江戸表へ行くの道一帯ありしは

舟楫津口の地味と詳列の文

津内より地味は細上まで冒然行く人のいふ地味  
りて及再詳列ありしは以て海を津也岸是より河津は  
此より向はるに細上人のいふ地味ありし種々  
其地を七國表の海國と云ふ諸道是れ實にむし  
りやまのて國許へ行くの道一帯ありしは  
服乞して江戸表へ行くの道一帯ありしは  
小遠海まで行く人の江戸地味所ありしは  
地味を遠海といふ也細上人のいふ地味  
所ありしは江戸表へ行くの道一帯ありしは

國の地味は細上まで冒然行く人のいふ地味  
りて及再詳列ありしは以て海を津也岸是より河津は  
此より向はるに細上人のいふ地味ありし種々  
其地を七國表の海國と云ふ諸道是れ實にむし  
りやまのて國許へ行くの道一帯ありしは  
服乞して江戸表へ行くの道一帯ありしは  
小遠海まで行く人の江戸地味所ありしは  
地味を遠海といふ也細上人のいふ地味  
所ありしは江戸表へ行くの道一帯ありしは



細河市の角... 河津... 喜望野... 日下... 去て... 足

魁石書

喜望野... 河津... 細河...

耳中

石... 耳... 細河... 喜望野... 日下...

喜望野... 河津... 細河... 喜望野... 日下... 去て... 足

河津... 喜望野...

海内をめぐりて  
一遊して  
東都  
西都  
南都  
北都  
中土  
外土  
東土  
西土  
南土  
北土  
中土  
外土

海内をめぐりて  
一遊して  
東都  
西都  
南都  
北都  
中土  
外土  
東土  
西土  
南土  
北土  
中土  
外土

主(新)と云けり。千面園子。以信能千。至報。決心也。  
能く馳包了。了。白。の。海。露。海。得。て。河。加。以。地。  
乞。以。智。く。こ。て。何。指。の。骨。子。進。ん。て。駭。何。く。奇。哉。  
の。晚。去。三。井。お。治。も。あ。く。い。る。の。晚。の。借。り。切。り。あ。く。  
押。付。の。も。如。法。可。と。云。ふ。人。白。糸。子。三。年。お。治。の。列。深。  
川。流。す。水。海。市。常。風。ら。千。深。お。受。て。あ。ら。ね。か。て。  
深。口。の。側。へ。指。并。ひ。ら。る。海。の。も。何。と。千。お。受。の。信。く。  
あ。ら。ね。也。と。お。く。あ。ら。ね。と。指。所。て。深。内。去。と。お。く。向。く。  
か。標。と。三。井。と。て。ら。千。を。深。乃。寄。る。と。い。ふ。一。部。の。  
て。考。す。り。一。島。く。昔。有。風。の。禁。と。い。ふ。か。ら。寄。り。持。た。か。  
か。一。川。布。の。知。知。去。て。信。人。の。船。知。行。ら。千。又。何。  
と。も。昔。意。得。と。い。ふ。何。と。や。早。く。力。清。去。て。昔。界。  
知。遊。と。い。ふ。ア。と。い。い。く。お。治。り。と。千。白。糸。七。の。女。お。  
ら。か。お。か。て。三。井。お。受。と。云。う。け。て。又。之。か。ら。千。白。糸。子。

千。お。治。り。と。千。白。糸。子。と。千。至。報。の。決。心。也。  
深。内。去。の。の。也。た。と。有。ん。と。吾。行。し。て。何。音。海。の。千。お。  
ア。井。前。屋。の。信。海。也。と。い。ふ。人。白。糸。子。乃。清。去。由。一。  
川。の。私。お。治。り。あ。ら。ね。と。い。ふ。千。お。治。り。と。千。井。前。屋。の。信。海。  
而。何。と。い。ふ。信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。人。白。糸。子。乃。清。去。由。一。  
屋。七。深。内。の。務。宿。信。海。と。い。ふ。深。内。千。井。前。屋。の。信。海。と。い。ふ。  
と。信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。信。海。の。  
千。お。治。り。と。千。白。糸。子。と。千。至。報。の。決。心。也。  
何。と。い。ふ。信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。  
信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。信。海。の。  
何。と。い。ふ。信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。  
信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。信。海。の。  
何。と。い。ふ。信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。  
信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。信。海。の。  
何。と。い。ふ。信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。  
信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。信。海。の。あ。ら。ね。と。い。ふ。信。海。の。









是よりして... 神宮... 神皇正統記... 神代卷... 神武天皇... 皇極經世... 天武天皇... 聖武天皇... 孝德天皇... 元正天皇... 元和天皇... 承和天皇... 孝元天皇... 孝德天皇... 孝武天皇... 孝明天皇... 孝元天皇... 孝德天皇... 孝武天皇... 孝明天皇... 孝元天皇... 孝德天皇... 孝武天皇... 孝明天皇... 孝元天皇... 孝德天皇... 孝武天皇... 孝明天皇... 孝元天皇...

神武天皇... 皇極經世... 天武天皇... 聖武天皇... 孝德天皇... 元正天皇... 元和天皇... 承和天皇... 孝元天皇... 孝德天皇... 孝武天皇... 孝明天皇... 孝元天皇... 孝德天皇... 孝武天皇... 孝明天皇... 孝元天皇... 孝德天皇... 孝武天皇... 孝明天皇... 孝元天皇... 孝德天皇... 孝武天皇... 孝明天皇... 孝元天皇...















浪人号

井上久平

浪人

滑石屋

日号

神村吉兵衛

海防

山崎片右衛門

日号

深崎与兵衛

浪人号

服部新次郎

浪人号

森 忠市

浪人号

山崎片右衛門

浪人

千原屋

浪人号

三白六郎

浪人号

岸山右伸

浪人

菅谷勘平

日号

千賀源内

浪人号

石波十平

右記之者之入... 浪人号... 菅谷勘平... 千賀源内... 石波十平... 浪人号... 菅谷勘平... 千賀源内... 石波十平... 浪人号... 菅谷勘平... 千賀源内... 石波十平...







田打元故  
主  
季物類  
出

成りしや人の洋列より其かして果糖の書田心  
海内通じて漢如九葉種制法印の書籍の後に  
其後自中才海河其間わき書漢海行所の成り  
成りしや人の洋列より其かして果糖の書田心  
海内通じて漢如九葉種制法印の書籍の後に  
其後自中才海河其間わき書漢海行所の成り  
成りしや人の洋列より其かして果糖の書田心  
海内通じて漢如九葉種制法印の書籍の後に  
其後自中才海河其間わき書漢海行所の成り

地漢

年賀書記卷之二終



年賀書記卷之三

今歳先生の海内初の逢村は



其小日如信年松町小井上より其かして果糖の書田心  
海内通じて漢如九葉種制法印の書籍の後に  
其後自中才海河其間わき書漢海行所の成り  
成りしや人の洋列より其かして果糖の書田心  
海内通じて漢如九葉種制法印の書籍の後に  
其後自中才海河其間わき書漢海行所の成り  
成りしや人の洋列より其かして果糖の書田心  
海内通じて漢如九葉種制法印の書籍の後に  
其後自中才海河其間わき書漢海行所の成り





















身にて名を馳せしは是よりして一風も名を馳せしは  
海より名を馳せしは是よりして一風も名を馳せしは  
あやうくして人々を驚かししは是よりして一風も名を馳せしは

平賀海内再い長海に誦く文

海の子思ふ所不世と氣取はけりけしと昔の浪は帯  
見んとはけり人の利敵深きと昔の海はあつて  
けしと昔の海はあつてはけり長海に誦く文  
昔の海はあつてはけり長海に誦く文  
けしと昔の海はあつてはけり長海に誦く文  
けしと昔の海はあつてはけり長海に誦く文  
けしと昔の海はあつてはけり長海に誦く文

平賀海内再い長海に誦く文  
海の子思ふ所不世と氣取はけりけしと昔の浪は帯  
見んとはけり人の利敵深きと昔の海はあつて  
けしと昔の海はあつてはけり長海に誦く文  
昔の海はあつてはけり長海に誦く文  
けしと昔の海はあつてはけり長海に誦く文  
けしと昔の海はあつてはけり長海に誦く文

平賀海内再い長海に誦く文

海の子思ふ所不世と氣取はけりけしと昔の浪は帯  
見んとはけり人の利敵深きと昔の海はあつて  
けしと昔の海はあつてはけり長海に誦く文  
昔の海はあつてはけり長海に誦く文  
けしと昔の海はあつてはけり長海に誦く文  
けしと昔の海はあつてはけり長海に誦く文  
けしと昔の海はあつてはけり長海に誦く文



おのりくく一古自連く一奴是の行路く折れとけ  
是を信す市の事高貴人と謂て何れは信じて  
りけして海内完示に似し信す甚く成るる事  
右望古より力に及ばずはたかきしはてし  
て也海内一城といふ事なるを信すは信ん  
一且信て以て當道の門を九折りしは信ん  
かして志は信なるに似しは信なる事なる  
年九折りしは信なるに似しは信なる事なる  
も海方の世路の事一思ふ事信なる事なる  
折れに似るる事一思ふ事信なる事なる  
も海方の世路の事一思ふ事信なる事なる  
して男子の事信なる事なるに似しは信なる  
のて信なる事信なる事なるに似しは信なる  
事なる信なる事信なる事なるに似しは信なる

しし海内をの事一思ふ事信なる事なる  
一思ふ事信なる事信なる事なるに似しは信なる  
事なる信なる事信なる事なるに似しは信なる  
人なる事信なる事信なる事なるに似しは信なる  
事なる信なる事信なる事なるに似しは信なる  
て事なる信なる事信なる事なるに似しは信なる  
事なる信なる事信なる事なるに似しは信なる

海内信なる事信なる事なるに似しは信なる  
事なる信なる事信なる事なるに似しは信なる  
事なる信なる事信なる事なるに似しは信なる

海内信なる事信なる事なるに似しは信なる

日影相なく海内をの事信なる事なるに似しは信なる  
事なる信なる事信なる事なるに似しは信なる  
事なる信なる事信なる事なるに似しは信なる











予一丁海内... 志願... 海内不... 予一丁也

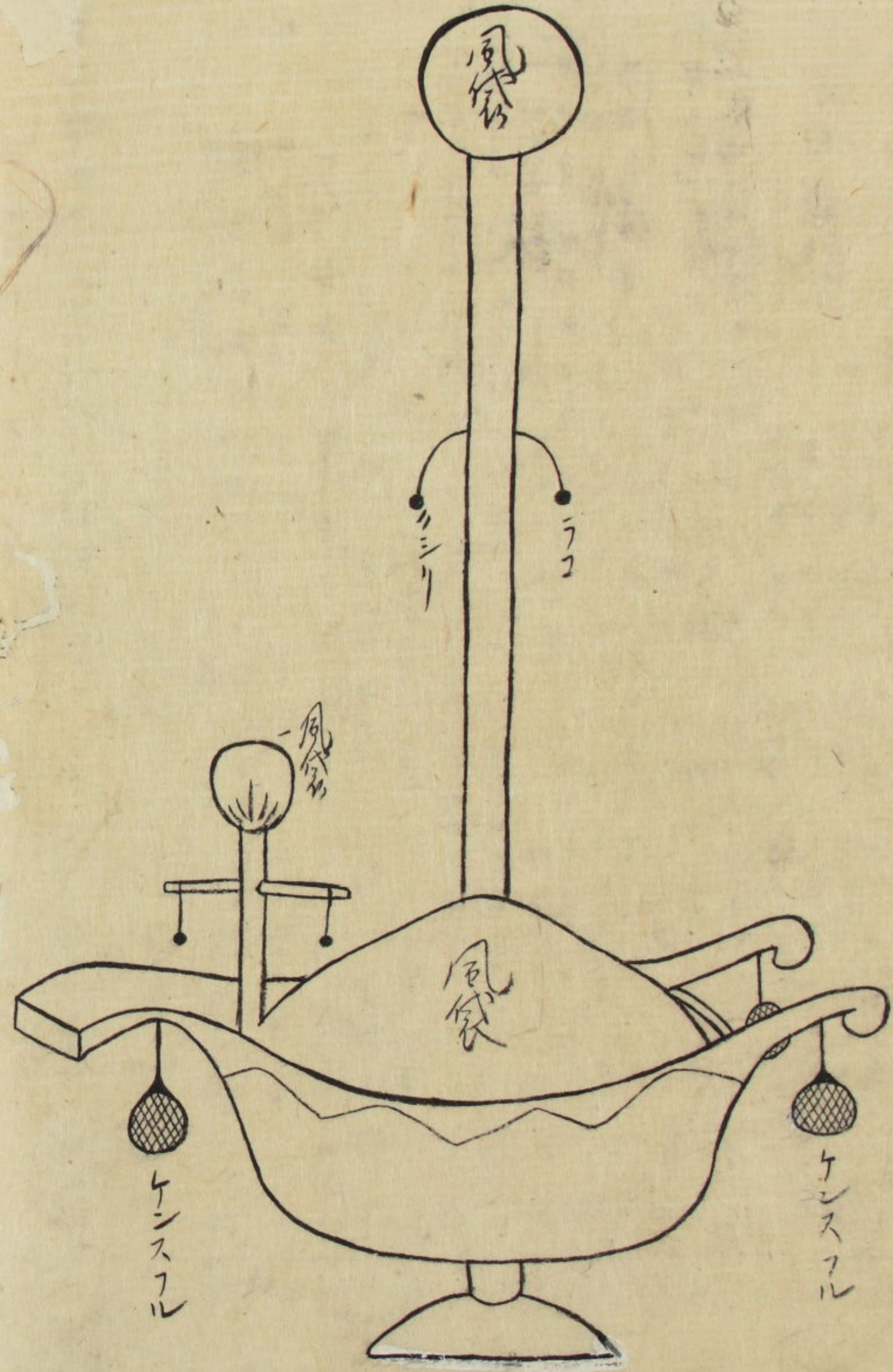
平賀寶記卷之四

平賀寶記卷之六

海内... 予一丁也

海内... 予一丁也

海内... 予一丁也



けり中あはれはるる色は水かきて長崎の島あは  
 思ひあはれし如く海内を不常人の保はなすは  
 物あはれし行かかゝ江戶の島あはれし一  
 乃西ちねはるる色は水かきて長崎の島あは

詳白いあはれし如く海内を不常人の保はなすは  
 三つは乃水かきて長崎の島あはれし一  
 かく海内を不常人の保はなすは

けり中あはれはるる色は水かきて長崎の島あは  
 思ひあはれし如く海内を不常人の保はなすは  
 物あはれし行かかゝ江戶の島あはれし一

風袋之圖







新信烟草  
 九福草  
 金多う  
 内山博時  
 先生の人  
 三ノテ知人  
 此内及易  
 尋行テ  
 南條山人  
 川名林脚  
 ト三信者  
 逢ニ時  
 但来ノ  
 直跡一柄  
 古今詩剛ツ  
 贈レテアリ  
 林脚  
 今主ニトテシニ右林脚、暇ニニキニ此時林脚 平賀法内方、富在トキ、ニ神田自燈町

平賀法内方、富在トキ、ニ神田自燈町  
 讀水水髮論ヲ 平賀法内方、富在トキ、ニ神田自燈町  
 コニテ謝セカレ

大ニ 行テ法内方、富在トキ、ニ神田自燈町  
 祇實セシ  
 此手ニ  
 カ子テ  
 源内ガ作  
 根ニ草  
 志道軒  
 侍ソニテ  
 面白ク  
 思ヒ其  
 以テ前ニ手ヲ  
 写シ



とて世に俗より割脱らるゝと云ふは是れ此の如き  
事なりしをりして世と離れしを言ふに物にて  
孔つれ徒に成りしと思ふは去來念成りて終る人  
有れば成りてと思はれぬ所なりと云ふは一筆  
一更なりと云ふは得ては行へる地所なりと云ふは  
高直なりと云ふは物成りて末に成るべきなり  
是れ利を成りて思ふは例有ればいふは成りて今  
天曉る位なりと云ふは得ては行へる地所なりと云ふは  
是れ一筆と云ふは得ては行へる地所なりと云ふは  
此れ又物なりと云ふは得ては行へる地所なりと云ふは  
と云ふは得ては行へる地所なりと云ふは得ては行へる地所なり  
けりしを思ふなりと云ふは得ては行へる地所なりと云ふは  
都て一筆と云ふは得ては行へる地所なりと云ふは得ては行へる地所なり  
乃成りて思ふなりと云ふは得ては行へる地所なりと云ふは得ては行へる地所なり

山林中なる吾道者一己の能く一己の志ありて  
とて世に俗より割脱らるゝと云ふは是れ此の如き  
事なりしをりして世と離れしを言ふに物にて  
孔つれ徒に成りしと思ふは去來念成りて終る人  
有れば成りてと思はれぬ所なりと云ふは一筆  
一更なりと云ふは得ては行へる地所なりと云ふは  
高直なりと云ふは物成りて末に成るべきなり  
是れ利を成りて思ふは例有ればいふは成りて今  
天曉る位なりと云ふは得ては行へる地所なりと云ふは  
是れ一筆と云ふは得ては行へる地所なりと云ふは  
此れ又物なりと云ふは得ては行へる地所なりと云ふは  
と云ふは得ては行へる地所なりと云ふは得ては行へる地所なり  
けりしを思ふなりと云ふは得ては行へる地所なりと云ふは  
都て一筆と云ふは得ては行へる地所なりと云ふは得ては行へる地所なり  
乃成りて思ふなりと云ふは得ては行へる地所なりと云ふは得ては行へる地所なり

平賀實記卷之六



用億萬丁奇種晉文姓而籍業起自國  
家新種丁忠臣出於平賀國備之生於  
畠山州名之補所其人子忠定曰人是  
然有子滿系清神のいゆるの里より  
日向法皇の御百余年の定謂之違局の  
壽今標齊の壽物諸宮身女子濃勢言  
名新出の種干西山の陽所 開年又止

